

この学校にわたしたち

2023. 5. 30

N010

学校教育に見る“仕合わせ”～運動会終わる～



最近、“ウェルビーイング”という言葉をよく耳にします。世界保健機構（WHO）憲章にもこの言葉は使われています。「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての

基本的人権のひとつです。（WHO 憲章日本語訳抜粋）」ウェルビーイングとは“幸せ”な状態にあることと捉えることができるでしょう。なかなか、すべてが満たされた状態であることはなかなか難しいとは思いますが…。幸せのもともとの語源は“仕合わせ”だという説もあります。（中島みゆきさんの「糸」にも使われています）仕合わせという言葉は“めぐり合い”“出会い”という意味もありますが、「誰かと何か行動をすること自体が幸せ（仕合わせ）である」と聞いたことがあります。



27日（土）には好天のもと、令和5年度の運動会を実施することができました。今年、新型コロナウイルス感染症法の改訂により人数制限や検温等を行うことなく、通常通りの運動会を行うことができました。本校は今年から6年生の社会科の学習内容や行事のバランス、全校児童の健康にかかる安全性を考慮し、今年、5月への変更をしました。そのため、どの学年も5月8日以降の練習となり、実質、2週間の期間で係活動の確認や演技・協議の指導を行ってきました。少し前の学校だよりで「イベントとしての運動会から頑張りを見ていただく運動会への転換」と書かせていただきました。いかがだったでしょうか。色別全校リレーでは全員が一生懸命に走り、一生懸命に応援をしている姿が印象的でした。また、低学年の『レインボー』と題したダンスでは高学年があたたかく見守り、高学年の『つなぐ』という表現では低学年がテントの中から一緒に声を出し、その場で座りながら演技をしている姿が印象的でした。全校生徒41名。練習期間実質2週間と思えないくらいの素晴らしい運動会に子どもたちはしてくれたと私は嬉しく感じました。運動会の子もたちの様子を見ていて（ほとんどはカメラのファインダーからですが…）色々な学年と子どもたちが“心を合わせて同じ行動をする”運動会や学校教育自体が“仕合わせ”であり、人としての基盤を築く（非認知能力）大切な営みであると感じました。（右のQRコードで動画が見られます）

